

Spring



Summer



Autumn



winter



TIME CRISIS / SECTION 1/100

## CONCEPT

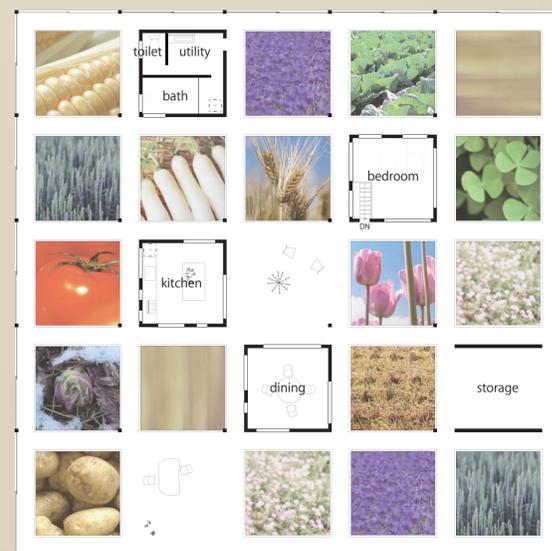
大地には静的な部分と 動的な部分が存在する。

建築の大地に対するアプローチを考えた時 多くの建築は静的な面に向かってしまっている。  
建築は大地を引き立たせる側となり 自らの姿を消すことで ランドスケープを創りだしている。

静止画のような 一瞬の関係性が 本来にランドスケープのあるべき姿なのだろうか？

私たちは"earthctecture"という言葉から大地のactivityと 人間のactivityがより近づく環境を考えた  
それは植物を媒介にし 植生のサイクルを居住空間に取り入れることである。  
そして大地と建築をより近づける。

# CHAMP



SITE & PLAN 1/200

## DIAGRAM

大地に穴をあける。  
そして接点を持つ。

それがきっかけとなる。  
そこに人が住まうことで 日常的に大地と関係を持つ。

人はその場所で 農業 ガーデニングなどを行う。  
大地と関わりが深くなる。

植物は成長し、人の活動に影響するようになる。

通れた道が通れなくなったり 見えるものや見えないものが生じる。  
それは絶えず変化し、人と大地は今まで以上に共生することとなる。